

ぼろんていえ

国際
交流

Volontiers!

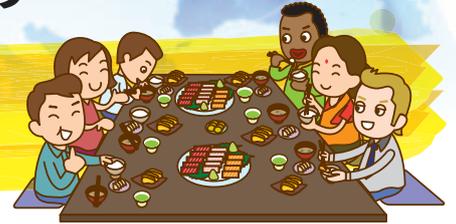
2019年9月
Vol.112

【編集/発行】
(一財)町田市文化・国際交流財団
町田国際交流センター

ボランティア

～町田国際交流センターだより～

ノースイースタン大学留学生 ホームビジットと交流会



7月20日(土)、今回6回目となるノースイースタン大学からの留学生12名を迎えて、受け入れるホストファミリー(HF)との対面式が11時から町田市民フォーラムで行われました。学生もHFの皆様もワクワクドキドキ。緊張しながらも笑顔で対面写真を撮影後、各々HF宅へ向かいました。ホームステイと異なり約6時間の短い訪問の中で日本の家庭の雰囲気をついかに伝えるか、HFによる精一杯の工夫で日本らしさを十分満喫したのではと思います。翌21日(日)の11時から留学生、HFの皆様と部会員でフォーラム調理室でお豆腐とお好み焼きをつくり食事会を開催。部会員の指導のもとで大変上手に仕上がりました。味も上出来。食事会終了後、留学生、HFが味についての感想を発表し合い、大変楽しいひと時となりました。その後留学生たちは浴衣を持って町田第二小学校体育館へ。原町田四丁目町内会のご協力を得て、盆踊りや和太鼓の練習に参加したり輪投げ、けん玉で楽しみました。蒸し暑さを吹き飛ばすように、浴衣をまとった留学生が懸命に踊る様子に、国際交流の意義を改めて感じました。

国際交流部会 森 隆之



ぼろんていえ

Volontiers! の由来：誘われたとき、頼まれたとき「喜んで！」と笑顔で応えるフランス語

町田国際交流センターではボランティアを中心に、日本にいる外国の方を支援したり、コミュニケーションの活性化をはかるなど、様々な活動を行っています。

国際交流事業やボランティアのお問い合わせは、町田国際交流センターまで (詳細▶5面)



KOKUSAI インタビュー

今回は、レ ヴァン ナム さんにお聞きしました。

Q お国はどちらですか？

ベトナムから来ました。ニアン (Nghean) です。北の方です。技能実習生として来ました。

Q どんなお仕事ですか？

左官です。マンションの内装などを行っています。ベトナムの人もたくさんいて、楽しいです。会社の寮で、8人で住んでいます。食事は当番でつくります。みんなでいっしょに食べます。

Q 日本で楽しいことは何ですか？

日本語教室が楽しいです。いろいろな人と話ができます (そばで聞いていた担当ボランティアは嬉しそう)。とても楽しいです。毎週楽しみです。

Q 日本でどこかへ行きましたか？日本のいいところはどんな点ですか？

横浜や渋谷に行きました。渋谷は人がいっぱいでおどろきました。あと、伊東に行きました。海で泳いだりしました。新幹線で行きました。とても速いですね。

日本はとてもきれいです。

Q 日本の食べ物はどうですか？

(何の迷いもなく) 焼き肉とビールが好きです。寿司はちょっと……。

Q 夏休みはありますか？どうしますか？

富士山に登る予定です。社長や友達と一緒に。

Q いいですね。とても寒いですよ。服装に気を付けてくださいね。あとで、写真をみせてください。最後にベトナムのよいところを教えてください。

たくさんありますが、ダナンがお勧めです。とにかく海がきれいです。

バーナーヒルズには、おもしろい橋がありますよ。近くのフエには宮殿があります。食べ物もおいしいです。フォーとか。

ありがとうございました。面白いですね。



◀ ゴールデンブリッジ
通称：神の手



▶ 阮朝王宮



ナムさん

「子ども教室ブラッシュアップ講座」と「日本語を母語としない高校進学ガイダンス」

日本に来て間もない中学生にとって、日本語学習と同時に高校受験の勉強をするのは本当に大変です。また、親の都合で来日し、なかなか学習へのモチベーションを保つことが難しい生徒もいます。このような子どもたちへの支援は試行錯誤の連続です。

そこで、6月1日（土）、ボランティア向けに「中学生の学習支援と高校入試について」（講師：元江戸川区日本語教室教員 小川郁子先生 参加者：24名）というブラッシュアップ講座を開きました。日本語か教科学習かではなく、各自のタイムラインの中で何ができるか考えることや、個別指導だけではなく、生徒同士で高めあう「集団力」を生かすことが大事であるなど現場を経験された貴重なお話を伺うことができました。

また、7月13日（土）、中学生対象に「高校進学ガイダンス」（参加者：中学生6名、保護者、通訳）を開きました。これは、都内各地で行われている「日本語を母語としない高校進学ガイダンス」を、町田版にアレンジした資料を使い説明しました。参加者は東京都の入試制度、勉強の方法、夏休みの過ごし方などの話を真剣に聞いていました。

今後、外国からの生徒はますます増えていくと考えられます。高校入試を抱える中学生をどう支援していくか、これからも試行錯誤しながら、各生徒にあった支援を考え、今後も教育委員会、学校との連携を一層深めていきたいと思えます。

子ども教室 高島 みゆき



ブラッシュアップ講座の様子



ブラッシュアップ講座講師の小川氏



高校進学ガイダンスの様子

このイベントは、国際ソロプチミスト町田一さつき(国際交流センター 賛助団体)の協力により、地域在住の国際結婚をしている方々に、生活の中で楽しいことや困っていること、これからのことなど、ざっくばらんに語り合い、親睦をはかっていただくことを目的に行われました。

まず、参加者15名の自己紹介から始まり、それぞれのご結婚に至るまでのお話を伺い、ドラマティックなエピソードに、皆で笑ったり、驚き感動したりと、あっという間になごやかな雰囲気になりました。

その後、日本での生活へと話が続きました。お互いの文化や言葉の壁を乗り越えるためには、何より歩み寄りが欠かせないことが皆さんに共通したお考えでした。あるカップルは、出会った頃、筆談やジェスチャーでコミュニケーションをとっていたそうですが、「お互いの目を見れば、だいたい思いは通じるんですよ。」と

照れながら語られていたのが印象的でした。

ドイツ、インドネシアなどの国際結婚事情を伺う中で、「人と人の出会いなので、国が違うことはあまり意識していない」とのお話には皆さん大きくうなずかれていました。

また、言葉の壁をこえるため、仲間作りのために、当センターの日本語教室が大いに役立っていることもわかり、今後の当センターの役割の大きさにも期待が寄せられました。

今回は、行政書士、社労士のご参加もあり、いつでも相談できる場があることを知っていただけたことは、地域で生活するうえでの安心材料になったのではないのでしょうか。

最後に、町田一さつきの会員によるお抹茶、和菓子のカフェタイムもあり、話も尽きず、内容の濃い懇談会となりました。



笑顔で集合写真



お抹茶とお菓子を頂く

研修会「肖像権・著作権・個人情報の取り扱いに関する基礎知識」

6月13日(木) 町田市民ホール

財団顧問弁護士の秋山一弘さんに標記の講演をしていただきました。最近、非常に問題となるプライバシーに関することで、財団の職員、国際交流センターのボランティアが参加をしました。まず、前提として、肖像権も著作権も個人情報も、全て個人に関する権利であるとのこと。「ぼろんていえ」掲載の写真やその他、広報に使用する写真やビデオの使用方法などを具体例も交えて伺いました。個人情報については特に各個人が注意をしなければならないと感じました。たとえば、名前だけでもそこから色々な情報が推測される場合もあります。パソコンやスマートホンの普及により、簡単に情報が得られる昨今です。

端末そのものの紛失や盗難、USBメモリー

の紛失など、十分な留意が必要です。私事ですが、以前にUSBを紛失した経験があります。小さいものなので、どこかへはいつまでも入ることがあります。今後は十分注意しなければと改めて反省しました。

肖像権・著作権・個人情報はインターネットなどの発展により、手軽に情報を書き込んでしまう恐れのあるものです。一人一人が気をつけなければいけませんね。

広報部会 荒明 美奈子



講師の秋山氏



貴重なお話を伺う

キルギスってどんな国？

6月29日（土）町田市民フォーラム

国際理解のための第9回 JICA 帰国隊員による活動報告会がありました。

遊牧民を祖先に持つ中央アジアの自然豊かな国、キルギスに派遣され約2年の活動を経て現職復帰（千葉県立高校）された久保善啓氏を講師にお招きして、お話をお聞きました。講演に入る前に予備知識として司会者より配布資料をもとに協力隊活動の現況について簡単な説明がありました。

説明によると：「昭和40年に青年海外協力隊の第1号隊員が初めてラオスに派遣されて今年が54年目になる。活動を終え帰国、現在、国内外の各分野で活躍中のOB、OG 隊員の累計人数は44,913人、現在も1,777人の隊員が78ヶ国で活動中。派遣年齢は20歳から45歳、派遣期間は原則2年、派遣国はすべて開発途上国」ということでした。

キルギスは天山山脈北側に位置し国土全体が山岳地帯、約6百万人が住むイスラムの国です。冬マイナス40度、夏40



講師の久保氏

度の環境下、講師は現地の公立中等教育学校で日本文化の紹介、日本語授業、現地教員への助言活動のほか、大学での授業など主に青少年活動を含む教育分野で活動されました。

開発途上の同国の国民生活は、厳しい自然環境のもとでの長年の遊牧生活と自給自足生活を経て受け継がれてきています。その生活習慣と生活の知恵、コミュニケーション力、旺盛な共助精神などは、昨今の世界の豊かな物質文明やネット社会に生きる我々に「真の幸福とは」を考えさせられるもので、新たな発見のあった報告会でした。

国際理解部会 下山 健



キルギスのことを満喫

第1回 日本語教室ブラッシュアップ講座

7月30日（火）町田国際交流センター

外気温34℃の真夏日の中、本年度第1回ブラッシュアップ講座を開催しました。

講師には、一橋大学言語社会研究所の高木祐輔先生を迎えて「日本語支援者に役立つ文法知識」、特に助詞「が」「は」の区別を中心に54名のボランティアが受講しました。

例題には“虹がきれい”、“虹はきれい”、“町田（って、は）人口が多いんですか？”

“町田は人口は多いんですか”、との区別について、その違いについて、さらに数多くの例題を掲げて解説され、日本語を支援する私達はいつも気にしないことですが、よい勉強になりました。今回初めて、

第2部として日本語文法を詳しく知りたい方たちを中心に先生に30分の質疑応答の時間をいただきま



講師の高木氏

した。

高木講師が現在、力を入れているグーグルに日本語を教え込むお話を頂き、“にはには、には（2羽）にはとりがいる”を機械がどう判断するか？というカラクリも知ることができました。

全体を通して、やはり私たちは教育機関つまり小・中学校の教師とは異なり、わかる日本語、話せる日本語を外国の人に伝え、支援していくことが重要であることを再認識した講座でした。

日本語教室部会 宮高 勇二



多くのボランティアが参加

ネパール・ミカの会理事長 齋藤謹也氏にインタビュー

Q：「ネパール・ミカの会」はどんな活動をされているんですか？

A：ネパール・ルンビニ地域を中心に、学校の修理や建設を応援しています。ネパールの学校は5年制なのですが、教室は2教室のみで、あとは青空教室という状況でした。そんなところの教室を増設したり、修理したりしています。最近5年で22～23校、今年も2校の予定です。こんな活動が現地ですぐに次へと紹介され、広まっていきました。現在は、このような学校建設と文房具や図書の寄贈などの教育支援を中心に医療支援も行っています。

Q：いつ頃から活動されているんですか？

A：1996年に仲間6人とネパールに旅行しました。ルンビニ公園に行く途中で学校を見学する機会を得ました。そこで部屋の中の雨漏りする場所をさけて勉強をしている姿を見ました。これは大変だと思い、帰国してから何か援助をしたいと考え、仲間を集め、翌1997年その小学校の修理をしました。その後、仲間と「ミカの会」を発足させました。当時は50人くらい、ネパールの方も含めて100人くらいでした。

Q：どのような方針で活動しているんですか？

A：我々の活動方針は「ゆっくり」「ささやかに」「心をこめて」「手から手へ」をモットーに会員の現地訪問での視察、調査、交流により手から手への支援をしています。どこかを介した支援ではなく、直接現地との関わりを持ち

ながらの支援です。建設作業員の給料なども我々から直接渡すようにしています。

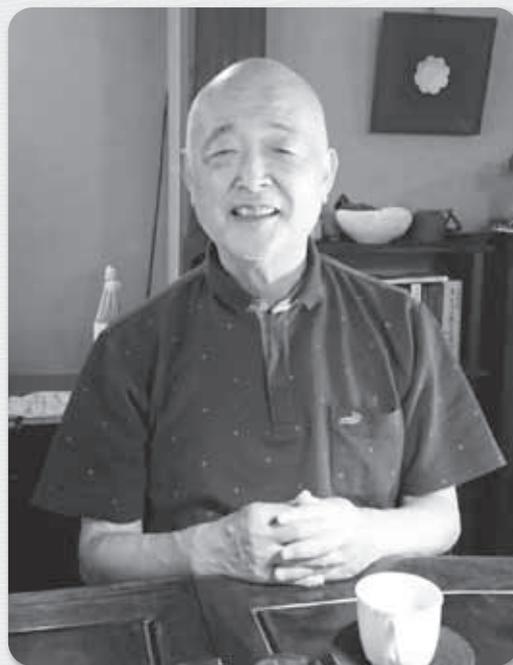
Q：今後の活動は？

A：働く場所もでき、次第に豊かになっていますが、文房具・図書の不足などはまだまだです。今後は校長を集めて、直接要望を聞き対応していきます。このように直接要望を聞くことが信用につながっています。

すばらしい活動ですね。

今後も頑張ってください。

ありがとうございました。



編集後記

四季は少しずつ移り変わり、長かった夏も終わり秋が始まり、衣替えの季節を迎えます。

夏休みが終わり、賑やかな子ども達の声も学校へと戻りました。今年9月には、ラグビーワールドカップ2019日本大会が開催されます。町田市もナミビア代表チーム公認のキャンプ地となっています。町田国際交流センターでは、9月16日に「ナミビアを知ろう!」と題して、留学生から話を聞く講演会を開催します。是非ご参加ください。

今後も、外国籍市民との交流・支援のために、ボランティアを中心により充実した事業を企画していきましょう。

生涯学習センター まちだ市民大学HATS 2019年度後期

まちだの福祉講座

～権利を知り、制度を活かし、地域に生きる～

子どもから高齢者まで、分野を問わず幅広い福祉を学びます。各回の講師は町田市をはじめ、多方面で活躍されている方々です。共通のテーマをもとに職場や立場をこえた参加者同士の交流をしてみませんか。講義に施設見学、交流会等を通して、多彩な内容のプログラムを学ぶことができます。

<講座の一部ご紹介>

第2回 障がい者がスポーツを楽しむ権利

第5回 障がい者の雇用を考える

第7回 高齢者医療の現場では

対 象 どなたでも

日 時 9月26日、10月10日、24日、31日、
11月7日、14日、21日、28日
木曜日 18:30～20:30 全8回
(第5回11月7日の見学回は17:00～19:30)

会 場 町田市生涯学習センター
6階学習室1・2他

定 員 30名



問い合わせ

町田市生涯学習センター

〒194-0013 町田市原町田 6-8-1 TEL 042-728-0071 FAX 042-728-0073
休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日) および年末年始(12月29日～1月3日)



ホームページをご覧ください!!

アドレス <http://www.machida-kokusai.jp>

新しい情報がいっぱい!!

町田国際交流センターのホームページでは、センターが主催する講演会や外国人向けの相談会のお知らせのほか最新の情報を提供しています。

また外国語版のページでは、「日本語教室」など、外国人の方々が地域で暮らすのに必要な情報を英語で提供しています。

今後も楽しいコンテンツづくりを目指していきます。是非、ご活用ください。

(一財)町田市文化・国際交流財団
町田国際交流センター

〒194-0013 東京都町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム4F
TEL 042(722)4260 FAX 042(722)5330

<http://www.machida-kokusai.jp>
E-mail: info@machida-kokusai.jp

事務局からのご案内・募集

町田天満宮秋祭り！！ “子ども山車”を引いてみませんか

- 日 時：9月22日(日) 13:00～15:00
- 対象者：外国人・日本人親子(小学生までの子どもと保護者)
- 定 員：30組
- 参加費：無料
- 集場所・時間：町田国際交流センター、12:00
町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム 4F
- お申し込み：①保護者の住所、名前、国籍、電話番号
②子どもの名前、年齢、背の高さを書いてお申し込みください。
電 話：042-722-4260 FAX：042-722-5330
メール：info@machida-kokusai.jp
- 締め切り：9月19日(木)
- お問合せ：町田国際交流センター TEL：042-722-4260
〒194-0013 町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム 4F



第18回 日本語学習者による日本語発表会

「まちだ地域国際交流協会」、「町田日本語の会」、「町田国際交流センター」で日本語を学んでいる外国人の方による日本語発表会を開催します。日本に来て驚いたことや楽しかったこと、自分の国と違うところなど色々な話を聞くことができます。ご家族で是非、お越しください。

- 日 時：10月13日(日)
13:30～15:30(開場13:00)
- 会 場：和光大学ポプリホール鶴川
- 定 員：300名(先着順)
- 参加費：無料
- お申し込み：不要 直接会場へお越しください。
- お問合せ：町田国際交流センター TEL：042-722-4260
〒194-0013 町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム 4F



第22回 町田発国際ボランティア祭 2019夢広場

夢広場は、国際交流・国際協力で活躍する学生サークルや市民グループ、NGOなどが参加し、異国雑貨の模擬店や民族芸能を紹介するステージを通して市民との交流と世界平和への願いを広げる場として開催しています。

是非、お越しください。

- 日 時：11月3日(日・祝) 10:00～16:00
- 会 場：まちの駅ぽっぽ町田
- 主 催：2019夢広場実行委員会
- お問合せ：町田国際交流センター TEL：042-722-4260
〒194-0013 町田市原町田4-9-8 町田市民フォーラム 4F

